

**調査の目的について**

本調査の目的は、「義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。(実施要領)」です。

本校では、この趣旨に基づき、常に教育活動の改善を図り、学習指導の充実に努めてまいります。本「調査結果」により保護者並びに地域住民の皆様にも、結果の概要をご理解いただき、今後も引き続き本校に対してご協力とご支援をいただきたくお願い申し上げます。

また、保護者の皆様には、個人面談の機会に個人結果を返却いたしますので、ご家庭でご活用ください。

なお、この調査により測定できるのは、あくまでも学力の特定の一部であり、この調査から得られる情報で、お子様や本校児童の学力のすべてを評価されるものではないことをご理解賜りますようお願い申し上げます。

**平成27年度全国学力・学習状況調査の結果【本校の概要】**

○実施月日 平成27年 4月21日(火)

○実施学年 第6学年 (73人実施)

**○実施教科等**

- ・国語A(主として「知識」に関する問題)
- ・国語B(主として「活用」に関する問題)
- ・算数A(主として「知識」に関する問題)
- ・算数B(主として「活用」に関する問題)
- ・理科

実施教科	平均正答率(%)		
	本校	全国	埼玉県
国語A	64.6	70.0	68.7
国語B	60.3	65.4	64.2
算数A	72.1	75.2	73.1
算数B	40.2	45.0	43.1
理科	56.6	60.8	59.2

- ・質問紙調査(学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査)

**○結果の考察及び今後の対策等**

- ・実施教科問題に対し無回答率が全国平均より高い。無回答率を減らすため、できる問題から行うというテストの受け方を指導する必要がある。
- ・記述式問題の正答率が全国平均より低い。解答方法を理解するため、過去問題に取り組み慣れる必要がある。

**【国語A】**

- ・書くことの領域が全国比+1で、昨年度の校内研修の成果が表れた。

- ・漢字を書くこと、文の構成の理解（主語、述語、修飾語）が全国比－10である。漢字ドリルを活用して意図的に復習し、当該学年までに配当されている漢字を習得させる。また、例文の中から主語と述語とを区別して取り出す活動を行う。

#### 【国語B】

- ・目的に応じ文章と図とを関係付けて読むが全国比－12ポイントである。目的に応じ、中心となる語や文を捉えるため、大事な言葉や文は繰り返し使われていることを指導する。

#### 【算数A】

- ・数量関係の領域が全国比－6％である。表やグラフから内容を的確に読み取ることができるように、似た問題を用意し、読み取った内容を説明する授業を実践する。

#### 【算数B】

- ・量と測定領域全国比－8％、図形－5％である。問題の条件や数値を一部変更した新たな問題をつくり、それに取り組んでいく。（過去問題の活用）

#### 【理科】

- ・観察実験の技能の観点が全国比－8％である。観察実験の際、教師が使用の目的や器具の用途を明らかにし、具体的な操作方法を示すとともに、全ての児童が実際に操作を行い、安全に留意しながら操作方法を確実に習得できるようにする。

【質問紙調査】 ○県平均以上 △同じ程度 ●以下

以下の項目について肯定的に回答している児童は正答率が高い。

- ・家庭でのコミュニケーションについて
  - 家の人と学校での出来事について話をする。
  - 家の方は授業参観や運動会などの学校行事に来る。
- ・社会に対する興味・関心について
  - 地域や社会で起こっている問題や出来事に興味がある。
  - △地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある。
  - 新聞を読んでいる。
  - テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見る。
- ・自尊意識について
  - 物事を最後までやり遂げて、うれしかったことがある。
- ・規範意識について
  - 学校のきまりを守っている。
  - 人の気持ちがわかる人間になりたい。
  - 人の役に立つ人間になりたい。